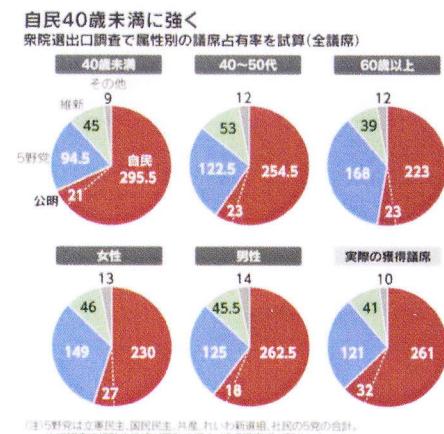


日本人の現在地

2021年12月5日@ゴー宣道場

日経新聞による分析



引用：【日本経済新聞】

彼らは自民党政権から恩恵を受けているのか？

- ・1992～93年バブル崩壊
- ・派遣法改正（＝男女雇用機会均等法改正）
- ・1997年消費税増税
→非正規の増加、デフレ、少子化の30年

日本社会の働き方

対価が支払われている「給与労働時間」で比較

日本人は男性も女性もイタリアの2倍、ドイツの1.5倍（両国ともGDP比は日本と大差なし）、男性の1日あたりの給与労働時間はドイツより162分、アメリカより115分も長い
1人当たりのGDPランクは30位前後=およそ1960年あたりの水準

時間/給与の限界

- ・正規と非正規の割合：全体38.2%、男性22.4%、女性56.7%
- ・給与の割合：
【全体】 正規503.4万、非正規174.6万
【男性】 正規561.4万、非正規225.6万
【女性】 正規388.9万、非正規152.2万

こんなに働いているのに…実態は

★単身を除く世帯の約3世帯に1世帯(31%)で貯蓄がない(金融広報中央委員会「家計の行動に関する世論調査」2017年)。これは、高度経済成長の途上の22%と比べても高く、1950年代、つまり戦後まもなくと変わらない水準といえる(なお、このままのペースでいけば、2035年には、50%の世帯が貯蓄なし)。

- ・世帯所得300万円未満の人々が全体の33.6%、
- ・400万円未満でみれば47.2%
- ・生活にゆとりがあると答えた人々は4%で、苦しいと答えた人々は約60%

引用:厚労省「平成30年国民生活基礎調査」

働き方への意識

『国際社会調査プログラム(International Social Survey Programme/ISSP)』の仕事や働き方にに関する『Work Orientation2015』によれば、41カ国中

- ・「失業の心配がない」:40位
- ・「収入が多い」:36位
- ・「仕事が面白い」:39位
- ・「ストレスを感じる」:3位
- ・「始業と終業の時間が固定されていて、自分の意志では変えられない」:6割にのぼった。

➤ 仕事におもしろさも自由度も感じない中で、失業や賃金の不安とストレスだけは抱えている。

教育格差=経済格差=地域格差

- ・地代一年収一偏差値
- ・地域、学歴、職歴という「身分制」社会へ
- ・教育:学校外教育費用を「私的」に負担できるか

【地代(国交省「住宅市場動向調査」)2019】

1位:港区 2位:千代田区 3位:渋谷区 4位:中央区 5位:文京区
6位:新宿区 7位:豊島区 8位:品川区 9位:目黒区 10位:中野区

【年収】

1位:港区 2位:千代田区 3位:渋谷区 4位:中央区 5位:目黒区
6位:文京区 7位:世田谷区 8位:新宿区 9位:武蔵野市 10位:品川区

【学力】

1位:文京区 2位:武蔵野市 3位:千代田区 4位:中央区 5位:目黒区
6位:世田谷区 7位:港区 8位:新宿区 9位:杉並区 10位:江東区

私たちの生の「自由」の感覚

★世界価値観調査

Wave5(2005-2009)

Q「どのくらい自由を感じますか」との問い合わせ、「非常に」との回答の割合は58カ国中58位、平均値を見ても51位

Wave6(2010-2014)

Q「あなたは、自分の人生をどの程度自由に動かすことができると思いますか」との質問に「人生は全く自由になる」という回答の割合は、60カ国中58位、平均値で59位

国民の生活に関する世論調査

○生活の程度の認識

	1973年	1983年	1993年	2003年	2013年	2019年
上	2.4	0.7	1.2	1.0	1.0	1.3
中の上	16.7	7.5	11.1	10.0	12.6	12.8
中の中	60.5	54.6	54.6	54.5	56.7	57.7
中の下	17.1	27.4	24.3	25.6	22.7	22.3
下	2.6	6.6	5.6	6.3	4.7	4.2
不明	0.7	3.2	3.2	2.5	2.3	1.7

1973年:90%を超えてから

1983年:89.5%

2012年:92.3%

2019年:92.8%

★日本人にとって最高次のアイデンティティが「中流」?

冷たい？日本人

【教育】

Q:所得の多い家庭の子どもの方がよりよい教育を受けられる傾向をどう思うか（ベネッセ教育総研、2018年）

A:「当然だ」+「やむを得ない」=62.3%
※2004年：約45%

【ともだちや他人】

友達の少なさ、格差、人生の後になれば著しくなる/友達が同質的な傾向

Q:「過去1か月の間に、助けを必要としている見知らぬ人を助けましたか」
(米Gallup社、2015年)

A:「はい」：25%…140カ国中139位

Q:「暮らしに余裕がある人は、経済的に苦しい友人を助けるべきだ」
(ISSP2017)

A:「そう思う」：最下位、「そう思わない」：30カ国中1位

若者の意識

Q:「生きる意味」について (PISA,2018年)

A:日本：ダントツ最下位（-0.40）、OECD平均0.02

Q:平成時代の意識

A:「権威ある人々には敬意を払う」
「伝統や慣習に疑問を持たない」
「指導者や専門家に頼った方がよい」
→「権威主義」の強さ
(松谷満「若者－「右傾化」の内実はどのようなものか」2019)

「無理ゲー社会」？？

リベラル

「自分の人生は自分で決める」「すべてのひとが、“自分らしく生きられる”社会を目指すべきだ」という価値観のこと

Q:リベラルな社会で“自分らしく生きることのできない人はどうすればいいのか？
※遺伝ガチャ、メリトクラシー

A:日本の若者…安い日本=低賃金、学歴という身分制、
増える高齢者を支え、モテ/非モテ格差の激化、を100年生きさせられる「無理ゲー」社会

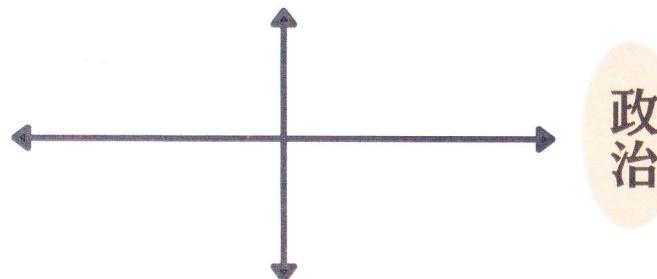
➤これを一人で攻略するのが「自分らしく生きる」リベラルな社会のルール

イカゲーム ○△□



価値観にコミット

経済・ビジネス



価値観にコミットしない相対主義

残念な未来から“自分だけ”抜け出すために

日本が直面している問題（例えば少子化問題）に対する解決策はすぐに思いつくが、

- 「でも、それを実行に移すためには、他人の子どものために税金を使われるのが嫌だと考える人が多数派であるという現実を変える必要があります。」
- 「日本で幸せに生きるには社会を変えるか？心構えを変えるか？の二択になるんじゃないかなと思っていました。とくに「心構えを変えたい」という人には、本書が役に立つはずです」

空虚な自己を埋める「世間体」

- 共同体・コミュニティの喪失
- 孤独、不安、ケアの問題
- 短期的にファストな「正解」を求められる
- 他人/他者のことなど考えられない“自分さえよければよい”社会

➤ 「大多数が正解だとしていること」に従う
= 「世間体」※世間体教

※あらゆる共同体で「野党」にならないように生きる

日本のどの機関を信頼しているか？



（言論NPO世論調査）